

令和4年度 札幌市ひきこもり地域支援センター設置運營業務

札幌市ひきこもり地域支援センター 事業実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

公益財団法人北海道精神保健推進協会(以下「当法人」という)では札幌市より「札幌市ひきこもり地域支援センター」(以下「当センター」という)の運営委託を受け、平成27年10月より、ひきこもり当事者や家族等からの相談を受けるとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民等に対する普及啓発などを行ってきた。

当年度の開所日数は245日(平日)と出張無料相談会が22日(土曜・日曜)あり、計267日となる。新規相談は265件であり、毎日1ケース程度の相談があったといえる。延べ相談件数は、令和3年度の2,858件から3,026件に増加している。令和2年度から相談件数は増加しており、新型コロナウイルスによる相談件数への影響は無いものと思われ、情勢に関わらず年間を通じて相談があったと言える。

また、アウトリーチ支援は350件あった。令和元年度から数えて、118件→179件→268件と年々増加している。これは、コーディネーターが4名体制となった中で、ケースに応じて熟考し積極的にアウトリーチ支援を行った結果でもあり、親が高齢で当センターまで足を運べない、役所等への同行、一人暮らしへの準備等、個々のケースに応じた支援をした結果である。一方でアウトリーチ支援は、移動時間等が他相談に比べて労力がかかり、件数が増えていく事で他相談業務への負担も同時に生じている。出張無料相談会は引き続き行っている。当年度は、例年の各区相談希望者の傾向に合わせて、開催回数を工夫した。

支援機関の連携については、既存の連絡協議会等を活用し、地域の関係機関(医療、保健、福祉、教育、就労等)との情報交換を行う等、各機関間で恒常的な連携が確保できるように努めた。状況に応じて、各支援機関へスーパーバイズ(指導・監督・助言)も行った。児童期に関しては、「さっぽろ子ども・若者地域支援協議会」のネットワークを活用した。

居場所「よりどころ」事業への相談員(専門職)派遣も継続し、「よりどころから相談へ」、「相談からよりどころへ」、親・当事者それぞれのケースで状況に応じて活用ができた。

相談支援の流れは以下のとおりになっている。

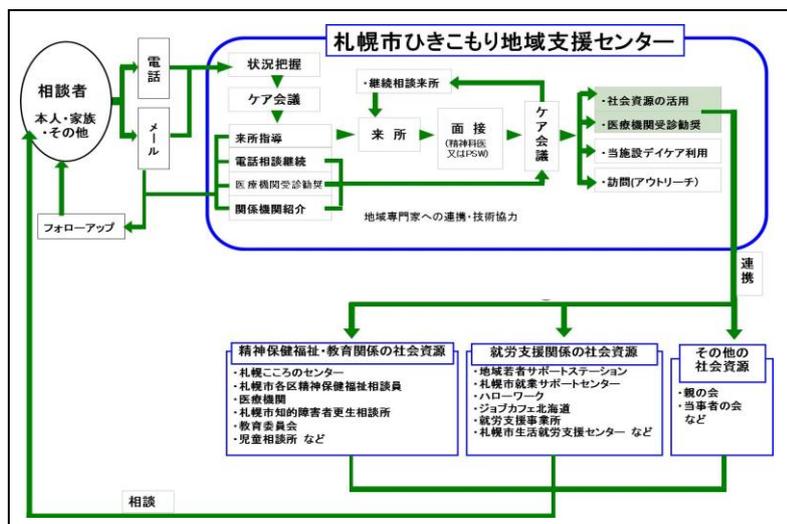


図1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

令和4年度の支援実績は以下のとおりである。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位:件)

相談件数計	3,026
新規相談	265
継続相談	2,761

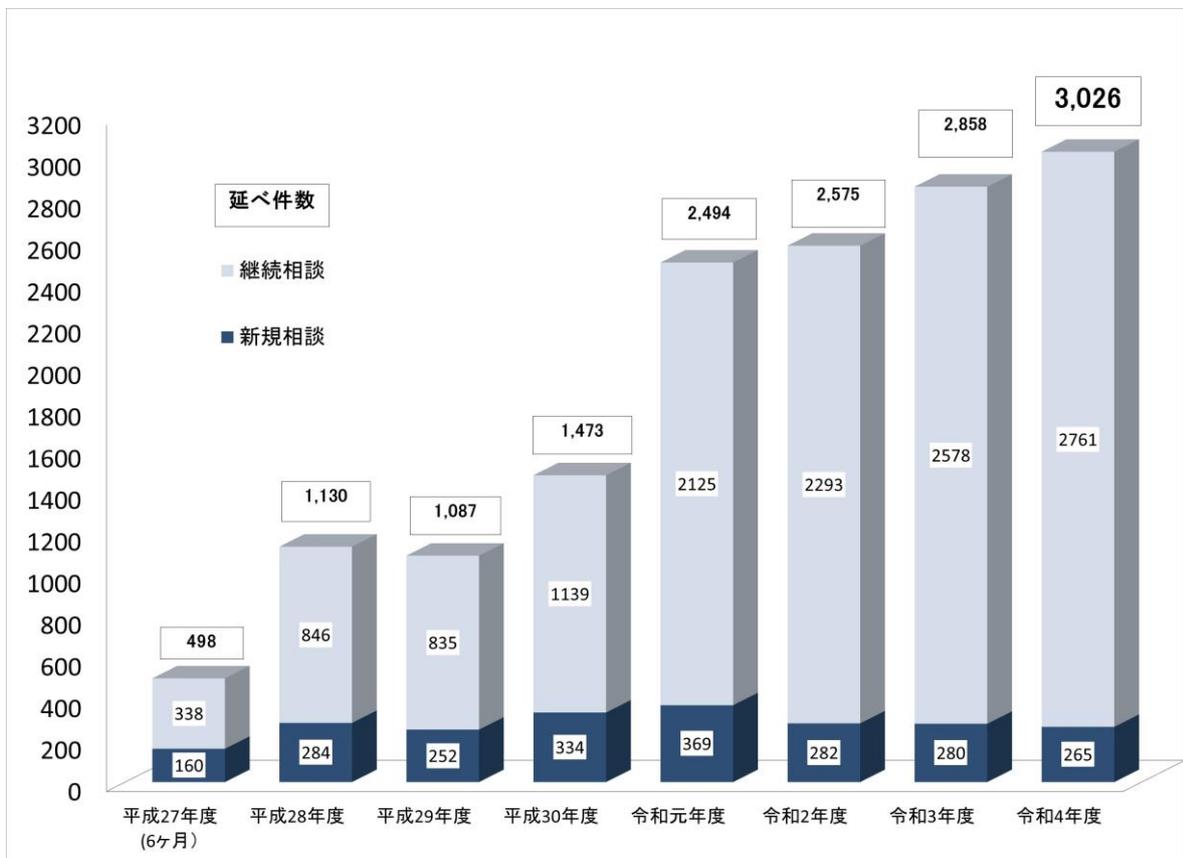


図2 相談件数の推移 (年度別)

○当年度の相談延べ件数は、3,026件であり、新規相談者は265名であった。昨年度と比較すると、新規相談件数は微減となっているが、継続相談は増加している。

○延べ件数を開所日数(267日:平日245+出張相談の土日22)で割ると、一日あたり約11.3件、相談を受けていることになり、令和3年度の一日あたりの件数、約11.1件より微増している。

イ. 相談方法別内訳

	新規	継続	総計	構成比(%)
電話	171	294	465	14.4%
来所	22	1027	1049	32.5%
メール	44	1033	1077	33.3%
アウトリーチ	5	345	350	10.8%
出張相談等	23	62	85	2.6%
小計	265	2,761	3,026	
連携	-	204	204	6.3%
ケア会議	-	-	-	-
総計	265	2,965	3,230	100%

- 新規相談では「電話」が最も多く、ついで「メール」「来所」の順に多い。
- 「来所」には、「ひきこもり外来」を含む。
- 「ケア会議」に件数を計上はしていないが、必要に応じて全ての相談ケースにおいて、日頃から各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。
- 「アウトリーチ（訪問支援）」については慎重に行う必要があり、本人及び家族へのアセスメントを十分に行ったうえで実施している。
- 電話オンライン相談が4件ある。

開催区	件数	開催数
白石区	2	2
豊平区	4	3
厚別区	1	2
手稲区	11	4
清田区	4	2
中央区	13	6
東区	10	6
西区	20	5
南区	7	5
北区	13	6
計	85	41

- 当年度は西区の希望者が多かった。
- 当センターが白石区所在という事もあってか、近隣の区からの希望は少ない。

ウ. 相談時間

(単位:回)

	0~ 15分未満	15~ 30分未満	30~ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	124	192	113	36	465	190:30	25分
来所	79	197	381	392	1049	782:06	45分
メール	782	201	87	7	1077	247:40	14分
アウトリーチ	1	5	63	281	350	417:40	1時間12分
出張相談等		1	9	75	85	91:00	1時間4分
連携	126	38	14	26	204	65:20	19分
計	1112	634	667	817	3230	1794:16	33分

エ. 延べ回数と実人数

1. 電話相談

延べ回数	465回
実人数	256名

2. 来所相談

延べ回数	1,049回
実人数	168名

3. メール相談

延べ回数	1,077回
実人数	121名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

4. アウトリーチ

延べ回数	350回
実人数	82名

5. 出張相談等

延べ回数	85回
実人数	53名

(2) 新規相談者の状況

ア. 相談者内訳

(単位:件)

	件数	構成比
本人	58	21.9%
父	23	8.7%
母	91	34.3%
両親	7	2.6%
兄弟姉妹等	51	19.2%
その他	35	13.2%
計	265	100%

- 「父」「母」「両親」「兄弟姉妹等」の相談が計 64.8%となり、初めに家族からの相談が6割以上を占めている。「本人」からの相談も21.9%あり、全体の約2割となる。
- 「兄弟姉妹等」の内訳は、兄弟姉妹が37件、いっこ、祖母、叔母などの親族が14件である。
- 「その他」の内訳は、他支援機関からのケース紹介、知人、友人等である。

イ. 相談方法別内訳

(単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	計
本人	29	5	20	1	3	58
父	16	3	2		2	23
母	59	9	10	2	11	91
両親		4			3	7
兄弟姉妹等	37	1	9		4	51
その他	30		3	2		35
計	171	22	44	5	23	265

- 新規相談に関しては、どの相談者においても「電話」が多い。「本人」からの相談は「メール」も多い。

(3) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満	1			1	0.4%
10歳以上～15歳未満	5		1	6	2.3%
15歳以上～20歳未満	20	12	1	33	12.5%
20歳以上～30歳未満	46	25		71	26.8%
30歳以上～40歳未満	33	17	1	51	19.2%
40歳以上～50歳未満	32	6		38	14.3%
50歳以上～60歳未満	28	10		38	14.3%
60歳以上	1	2		3	1.1%
不明	16	7	1	24	9.1%
計	182	79	4	265	100%

- 「20代」の相談が全体の約1/4を占めている。
- 「40歳以上」の相談が、全体の約5割を占めており『ひきこもり』が若者だけの問題ではない事が分かる。
- 最少年齢は7歳、最高年齢は61歳となっており、男性の平均は34.0歳、女性の平均は31.7歳、全体平均は33.1歳であった。

イ. 当事者の居住地区 (単位：件)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	47	17.7%
白石区	36	13.6%
豊平区	23	8.7%
厚別区	16	6.0%
手稲区	7	2.6%
清田区	6	2.3%
中央区	27	10.2%
東区	34	12.8%
西区	28	10.6%
南区	16	6.0%
北区	25	9.4%
計	265	100%

○当年度の相談のうち、「札幌市内」は相談の中で居住地区までは分からないが、札幌市内在住までは把握できた場合に計上している。

○件数では、「白石区」「東区」「西区」「中央区」の順に多かった。

○各区からの相談が寄せられている。

(4) 相談目的

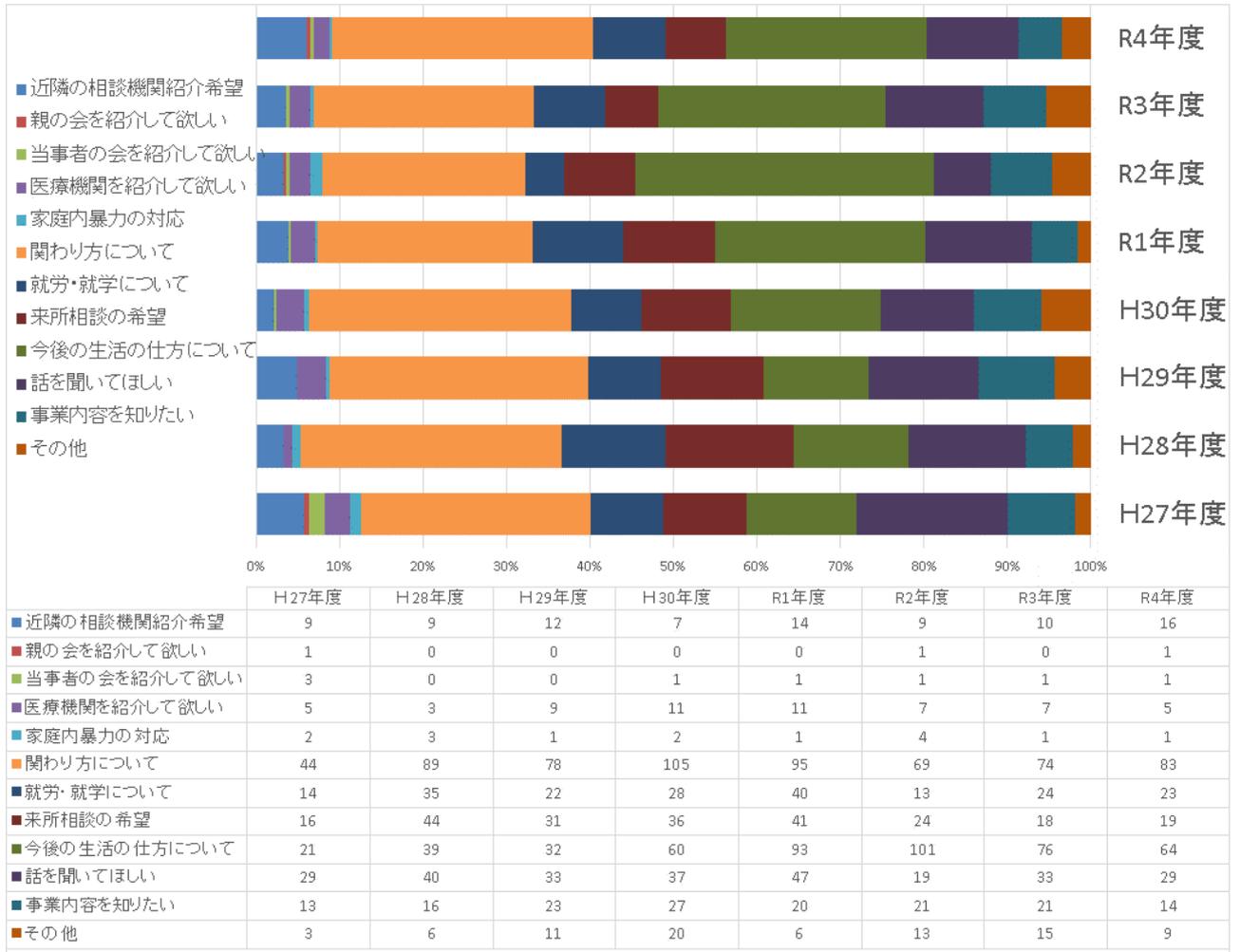


図3 相談目的件数の割合と推移(年度別)

○相談目的は多岐にわたっている。

○相談目的としては「関わり方について」「今後の生活の仕方について」の割合が依然として高い。

○「その他」には、「ひきこもり外来の希望」「訪問や出張相談の希望」、「他機関からの照会」などがあげられる。

(5) 他機関への相談経験の有無

(単位：件)

	件数	構成比
相談経験あり	132	49.8%
相談経験なし	8	3.0%
不明	125	47.2%
計	265	100%

- 把握できた範囲の件数。
- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 132 件 (49.8%) であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 「相談経験あり」の内訳は、医療機関(精神科・心療内科・児童精神科)が最も多く(87件)、区役所:保護課・福祉課(18件)、学校:スクールカウンセラー・教育委員会(11件)、当事者会・家族会(11件)、若者サポートステーション(8件) ※1 ケースにつき複数機関に相談していた場合を含む。
- 「相談経験あり」のうち、すでに医療機関にかかっているケースが最も多く、診断名(精神疾患)が付いているケースもある。また、身体障害等により外出しない、頻度が少ないという「ひきこもり問題」とは別の視点での相談もあった。

(6) 相談の継続性

実人数(相談開始時期別)

	R4年度に 相談を開始	R3年度に 相談を開始	R2年度に 相談を開始	R1年度に 相談を開始	H30年度に 相談を開始	H29年度に 相談を開始	H28年度に 相談を開始	H27年度に 相談を開始	実人数	相談延 べ件数	当年度 以前の 相談者
平成27年度 (6ヶ月)								160	160	498	—
平成28年度							284	57	341	1130	57
平成29年度						252	40	35	327	1087	75
平成30年度					334	33	25	29	421	1473	87
令和元年度				369	53	20	16	20	478	2494	109
令和2年度			282	65	33	13	12	17	422	2575	140
令和3年度		280	46	38	32	17	9	18	440	2858	160
令和4年度	265	56	29	34	23	14	9	11	441	3026	176

- 事業を開始した平成 27 年度、以降の年度それぞれの相談者が当年度にも継続相談しているケースがある。就労・就学・医療などに繋がり、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰を把握することが今後も課題と考えている。
- 当年度の相談のうち、相談後の転帰として「居場所等外出の機会が増えた(16 件)、医療に繋がった(40 件:新規ひきこもり外来含む)、就労支援に繋がった(3 件)就労した(3 件)」が把握できた限りにおいてあげられる。全てのケースにおいて、相談後の転帰を把握してはいないため、これ以外にも、就労・就学・医療等に繋がるなどのケースはあると思われる。

(7) 初回相談転帰

転帰	件数
終了	107
助言終了	(75)
関係機関紹介	(30)
その他	(0)
受診勧奨	(2)
中断	(0)
継続	158
電話・メール等相談継続	(124)
来所相談を希望・指導	(34)
総計	265

- 初回相談で終了したケースは 107 件 (40.4%) で、そのうち「助言終了」が 75 件であった。助言終了と判断した後も再度、電話相談等につながるケースもある。
- 初回相談で終了したケースには、「すでに医療機関に繋がっていたケース (主治医との関係に悩む、通院以外の外出が乏しい等の内容)」といった「ひきこもり」の相談ではないものもあった。
- 「電話・メール等相談継続」が 124 件、「来所相談」に切り替えたのが 34 件、計 158 件(59.6%) が継続相談を要すると判断し対応した。

(8) 連携状況

他機関からのつなぎ	件数	構成比
福祉課	34	27.2%
さっぽろ若者サポートステーション	16	12.8%
生活保護課	12	9.6%
A,B,移行就労事業所	10	8.0%
医療機関（精神科）	7	5.6%
共同生活援助（グループホーム）	5	4.0%
相談支援事業所	4	3.2%
包括支援センター	4	3.2%
札幌市精神保健福祉センター	4	3.2%
医療機関（他科）	4	3.2%
NPO法人	3	2.4%
訪問看護	3	2.4%
年金課	3	2.4%
札幌市生活就労支援センター	2	1.6%
不動産会社	2	1.6%
訪問型相談室	2	1.6%
民間企業	2	1.6%
介護事業所	2	1.6%
ジョブカフェ北海道	2	1.6%
高等学校	1	0.8%
フードバンク	1	0.8%
女性サポートセンター	1	0.8%
教育機関	1	0.8%
計	125	100%

他機関へのつなぎ	件数	構成比
福祉課	22	27.8%
さっぽろ若者サポートステーション	9	11.4%
相談支援事業所	7	8.9%
保護課	6	7.6%
共同生活援助（グループホーム）	6	7.6%
A,B,移行就労事業所	5	6.3%
包括支援センター	4	5.1%
民生委員	4	5.1%
医療機関（精神科）	3	3.8%
介護事業所	3	3.8%
NPO法人	2	2.5%
札幌市精神保健福祉センター	2	2.5%
民間企業	2	2.5%
高等養護学校	2	2.5%
札幌市ホームレス支援相談センター	1	1.3%
不動産会社	1	1.3%
計	79	100%

○当年度、他支援機関と連携したのは計 204 件ある。上記の表のとおり、当センターより「他支援機関へケース相談等を行ったのが 79 件」、「他支援機関からのケース相談や紹介が 125 件」ある。

○今後も、個々のケースに沿って適切な支援機関と連携していくことが、ひきこもり状態を脱するに繋がると考える。

(9) ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
令和4年度	8名
平成27年度～令和3年度	42名
計	50名

○当年度、ひきこもり相談やひきこもり外来から当施設併設のデイケア通所につながったケースは8名であり、これまでに50名がデイケア通所につながり、現在も通所中のケースも多い。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成27-令和3年度	令和4年度	計
延べ回数	1,750回	739回	2,489回
新規ケース	116名	23名	139名

○当年度、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは23名であった。

○当年度、実人数として、ひきこもり外来を71名に対して行い、計739回の診察があった。診察回数はこれまでに一番多い。集中的な治療が必要なケースもあり、ひきこもりと精神障碍との関連も忘れてはならないことが分かる。

○外来に繋がった事により、『ひきこもり』状態から脱する一歩を踏み出したともいえる。

○外来は、本人のみならず、父や母の同席といった家族に対しての診察を行うこともある。

2. 支援ネットワーク構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ、講演会等の講師派遣、研修会の開催、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。状況は以下のとおりである。

(1) 事業概要説明等

月	日	実施内容	備考
4	14 21	札幌市教育委員会より公立夜間中学の開校に向けた連携について	電話
5	18	札幌市東区支援調整課、今後の連携について	電話
5	25	江別市 A 児童デイサービス、不登校やひきこもりケースについて説明	来所
6	8	福岡市こども未来局より、ひきこもり支援について照会	メール
6	24	ひきこもり・就労支援合同説明会（さっぽろ若者サポートステーション主催）	派遣
7	12	北海道新聞社、ひきこもり者の就労について情報共有	来所
10	24	令和4年度 社会福祉推進事業「ひきこもり支援における効果的なオンラインの活用方法に関する調査研究事業にかかる調査協力」	WEB 回答
2	16	オホーツク相談センターふくろう、ひきこもり相談について情報共有	来所

(2) ひきこもり出張無料相談会・よりどころ実施状況（札幌市）

a. ひきこもり出張無料相談会実施状況

相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、相談の利便性を図るため「ひきこもり出張無料相談会」は毎月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30～16:00に実施した（1回あたり最大4件まで予約可）。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載（北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝2022年5月～2023年3月）、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。これまでの実績から、各区の相談希望者数に差があり、今年度は開催回数を工夫した。（6回:中央・北・東）（5回:西・南）（4回:手稲）（3回:豊平）（2回:清田・白石・厚別）

b. 居場所「よりどころ」（親の会・当事者会）への専門職の派遣

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している居場所「よりどころ」の「親の会」「当事者会」へ相談員を派遣した（各会19回ずつ、祝日1回を含む）。また、「親の会」では月1回、「学習会」として、「親の接し方や声掛け、病気や障害について等」、当センターから参加者に向けて伝えた。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケース、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
2	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「ひきこもりって精神医療が必要？」～そのはざままで揺れ動く事例～ インターネット配信期間：2/20(月)～2/27(月) 参加者居住地内訳：札幌市25名、北海道233名(札幌市以外)、道外5名	※講師：コーディネーター4名

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間（24時間いつでも）閲覧できるよう工夫を凝らした。

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
6	15	第1回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	ZOOM参加
7	15	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
8	4	第2回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	ZOOM参加
8	26	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
9	16	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
9	30	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会(事例検討)	2名参加
10	19	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
10	27	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会(事例検討)	2名参加
11	1	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和4年度総会・研究協議会	ZOOM参加
11	11	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
11	29	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
12	8	第3回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	ZOOM参加
1	23	孤独・孤立に関する連携プラットフォーム構築に向けた準備会 第1回	ZOOM参加
2	14	発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会	ZOOM参加
3	14	孤独・孤立に関する連携プラットフォーム構築に向けた準備会 第2回	ZOOM参加
3	16	第4回さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	ZOOM参加

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
9	17	札幌市精神障害者家族連合会 精神療養講座	1名派遣
10	29	精神衛生学会(神戸市) ～ひきこもり支援から見えてくるもの～人を無力にするものは何か～	1名派遣
12	4	ひきこもり VOICE STATION 全国キャラバン in HOKKAIDO(札幌市)	2名派遣
2	9	令和4年度ボランティア活動センター講座(札幌市社会福祉協議会)	1名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
10	29	「ひきこもり生活の未来を生き抜く」 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加
12	4	ひきこもり VOICE STATION 全国キャラバン in HOKKAIDO (札幌市)	1名参加
12	21	SANGO の会 15 周年オンラインイベント 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	1名参加 (ZOOM 参加)
12	27	道内の社会的養護経験者の“その後”とパーマネンシー保障の在り方 主催：北海道大学大学院教育学研究院/臨床心理学研究室	1名参加 (ZOOM 参加)
2	28	令和4年度北海道困難を有する子ども・若者の支援連携研修会	1名参加 (ZOOM 参加)

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
3	20 ～ 27	令和4年度 ひきこもりサポーター養成研修 「ひきこもりサポーターの活躍の場」～居場所実践を聞きながら～ <各地域からのシンポジスト> 札幌市から「居場所よりどころ」、幕別町から「ひろばHIDAMARINO」 石狩市から「相談室まるしえ」、岡山県総社市から「ひきこもり支援センター ワンタッチ」 参加者居住地内訳：札幌市 39 名、北海道 73 名(札幌市以外)、道外 8 名、不明 1 名	ZOOM を利用したオンライン収録かつ動画配信研修会

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座学研修ではなく、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1 週間 (24 時間いつでも) 閲覧できるよう工夫を凝らした。

※「ひきこもりサポーター養成研修協議会 (※設置要綱 別紙 1)」は上記の理由から開催を見送った

3. 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
5	25	市民からの問い合わせについて（西野まちづくりセンター）	電話
5	26	「プライマリ・ケアにおけるひきこもり患者の受療と診療に関する研究」A大学	インタビュー
7	4	2023年版 民生委員・児童委員手帳 団体一覧の掲載	相談先掲載
8	16	北海道臨床心理士会ひきこもり支援委員会 ひきこもり支援関係機関の掲載	相談先掲載
11	-	STV ラジオ「ひきこもりについて」収録・出演	出演
11	30	「ひきこもり支援における支援者支援に関するアンケート調査」 厚生労働省社会福祉推進事業事務局	WEB 回答
12	1	滋賀県ひきこもり相談センターより、事業について問い合わせ	電話
1	16	横浜市青少年相談センターより、事業について問い合わせ	電話
-	-	道内保健所および市町村へリーフレット送付	郵送

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
令和4年度	18,994件	
令和3年度	18,027件	
令和2年度	19,640件	
令和元年度	23,001件	
30年度	20,320件	
29年度	19,876件	
28年度	17,297件	
27年度	13,552件	
26年度	13,865件	
25年度	11,431件	
24年度	8,032件	
23年度	4,232件	
22年度	3,220件	
21年度	3,109件	(9ヶ月分)

○「当センターを知ったきっかけ」として、当年度の新規相談265件のうち、「ホームページ」が130件(49.1%)と約半数となっており、有用な周知方法であるとわかる。他内訳としては、「不明」が74件(27.9%)、「行政窓口」が17件(6.4%)、残りは「当事者会・家族会」「支援機関」「新聞」「家族・知人」などがある。

